

日本マイクロサージャリー学会 — 50周年記念誌刊行に寄せて—



理事長 五 谷 寛 之

日本マイクロサージャリー学会は名誉会員や歴代役員，評議員，会員の先生方のご尽力により，研究会から始まったその歴史を重ねて参りました。そして2023年には50周年を迎えることができました。第16代理事長として，学会を代表して関係各位に御礼申し上げます。

生田義和先生，玉井進先生，藤野豊美先生という錚々たる先生方を発起人として1974年に第1回マイクロサージャリー研究会が開催されて以来，法人化を経て現在では整形外科，形成外科を併せた会員数は1,500名を数えるまでになっております。

第40回の本学会学術集会は盛岡の地で，矢島弘嗣理事長，会長の小林誠一郎先生のリーダーシップのもとで開催され盛大な記念式典が執り行われました。その際に本学会としては初めてとなります創立40周年記念誌が刊行されました。それからはや10年の時が過ぎました。

改めて創立40周年記念誌を手に取りますと私自身のマイクロサージャンとしての道のりを振り返りながら，40年間の学会の発展を知ることができました。また玉井進先生，波利井清紀先生をはじめとするレジェンドの先生方の珠玉の論文に触れることで新たな発見もありました。

50周年記念誌をどのような形で刊行するかについてはさまざまな討議がありましたが，多くの先生方がこの10年の本学会の足跡を残すべきであると考えられ，この企画は始まりました。

節目となる第50回日本マイクロサージャリー学会学術集会において，会長の亀井譲先生，第15代理事長櫻井裕之先生のご尽力で本学会の黎明期を築いてこられました先生方にご講演いただくことができた他，目玉企画として座談会も行うことができました。これらはビデオに収録され，記念誌のホームページバージョンで公開することも予定しております。

本誌において昨年の記念式典やこの10年の学会の歩みを紙媒体で振り返ることができる他，ホームページ上で昨年の記念式典の熱気と興奮を味わうこともできます。

最後になりましたが，大変ご多忙な中，非常に短期間で原稿を作成いただきました，名誉会員，役員，歴代会長の先生方，そして校正いただきました記念誌編集委員の先生方には心から御礼を申し上げます。

日本マイクロサージャリー学会 50周年を祝して



副理事長 関 堂 充

日本マイクロサージャリー学会は1974年9月16日に玉井 進先生（当時：奈良県立医科大学講師）を会長として第1回研究会として開催されました。当時の記録によると会期は1日、参加者は219名、うち整形外科医179名、形成外科医20名であったとのこと。演題数は研修講演2題、一般演題としては基礎関連3題、切断肢・指再接着術関連8題、遊離皮弁移植術関連3題で、当初は世界初の母指切断再接着で高名な玉井先生の影響か切断指関連が多く整形外科主体であったことがうかがえます。当時の演題を拝見しますと、その後大変著名になられた諸先生方が発表されており、すでに世界で先端を走り欧米に先んじて発足した研究会でありました。小さな研究会として発足した日本マイクロサージャリー学会が、1997年には第14回日本マイクロサージャリー学会学術集会となり、2024年12月7～8日には第50回記念大会が名古屋（亀井讓会長）で開催されました。総参加者は721名、シンポジウム30題、パネル56題、一般演題242題、総演題数336題と大きく発展した会となりました。発表内容も切断指、皮弁のみならず、各部位の再建、リンパ浮腫、新技術、基礎研究など幅広く、第2回から行われている伝統の技術講習会も行われております。長い歴史のなかではスーパーマイクロサージャリー血管吻合コンテスト（第47、48回）などの試みもあり、第51回大会でも開催されます。

各種の道具や顕微鏡など国産メーカーの協力もあり、8-0絹糸を用いていた血管吻合が今では11-0、12-0さらには13-0のナイロン糸まで、また繊細な縫合針なども開発され、手術の対象も広がりました。さらに近年では3Dやマイクロロボットなどの開発も進んでおります。

保険においては切断指再接着のみならず切断四肢再接合、遊離皮弁、自家遊離複合組織移植（顕微鏡下血管柄付きのもの）、リンパ管吻合術などが収載されてきており、マイクロサージャリーは日常診療でも欠くことのできない技術になりました。

現在、学会員は1,505名、うち整形外科医601名、形成外科医782名、その他122名とますます発展しております。国際学会では、第5回国際マイクロサージャリー学会：WSRM（2009年 沖縄）、第5回アジア太平洋マイクロサージャリー学会：APFSRM（2021年 つくば）が開催され、現在でも世界のトップランナーである学会です。

これまでの諸先輩方のご努力、50周年記念誌発刊にこぎ着けました五穀理事長のご苦勞に敬意を表するとともに、今後も諸先輩が発展させてきた本学会をますます発展させていくようこれからも学会員の諸先生方のご協力、ご尽力をお願いいたします。